

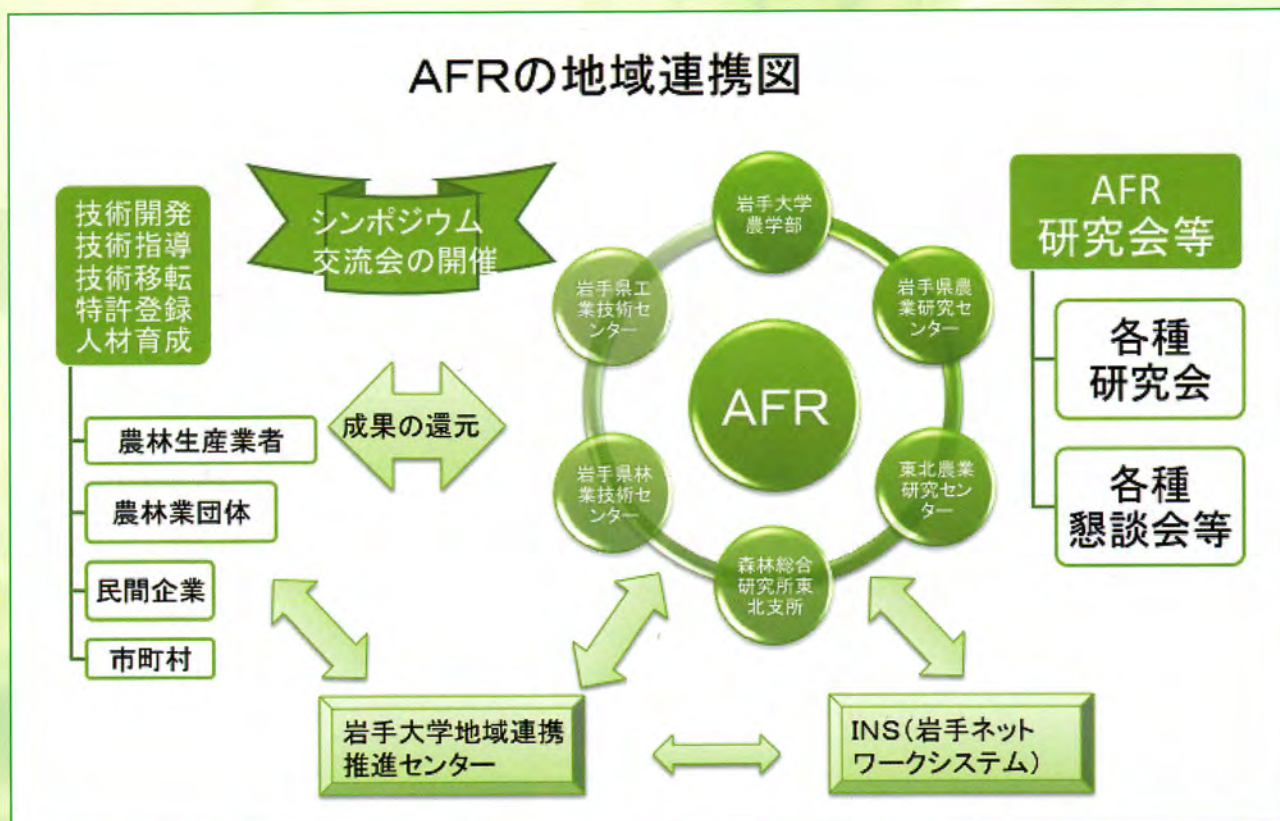
**岩手における
農林畜産業振興発展のための連携**



岩手農林研究協議会
アッフル
(AFR)

現代社会は食料、生命、環境、エネルギーに関わる諸問題に直面しており、農学分野はそれらに対処できる分野です。岩手県は食料自給率が100%を越えている数少ない県であり、わが国の食料基地であると共に、森林面積も多く、産業としての農林業、食産業に対する期待は大きいものがあります。岩手農林研究協議会(AFR)は、農林畜産業振興のために産官学の自由な情報交流の場や新たな研究推進の場として、平成10年に発足した全国的にもフロンティア的な組織体です。AFRの活動を通して基礎研究から実用としての出口まで現代社会が抱える課題に対応し、岩手県から発信していくことを祈念します。

AFRの地域連携図



AFRの活動経緯

平成10年3月に、高橋壯・岩手大学農学部長(当時)の呼びかけにより、岩手大学農学部、岩手県農業研究センター、同林業技術センターの関係者による「岩手県農林試験研究協議会(仮称)設置準備委員会」が開催され、要領案などの検討が行われました。その場で、協議会の正式名称を「岩手農林研究協議会(AFR)」とすることなどが承認され、この種の組織としては農学系で全国初となる協議会が誕生しました。その後、岩手県工業技術センター、東北農業研究センター、森林総合研究所東北支所・東北育種場が参加することとなり、連携の輪がさらに広がることとなりました。

AFRの中には研究推進や情報交換の場としての研究会が設置され、発足当時は19の研究会が、その後30以上の研究会に増えて活発に活動し、研究会の報告会とシンポジウムを毎年それぞれ1回ずつ行ってきました。しかし、シンポジウムは継続して実施されましたが、平成17年度から研究会の報告会は行われなくなりました。その理由はいくつか考えられますが、その一つは研究会活動にあり、活動を継続している研究会もあれば、役目を終わった研究会が出てきたという状況がありました。

上記の背景をもとに、平成21年度に、AFRのあり方と研究会の整理、見直しを行いました。具体的には、①従来組織主体の傾向が強いことが本協議会の特徴でしたが、その特徴を生かしながら個人参加の自由度を増していくこと、②役目の終わった研究会の整理と農林業に関わるものが自主的に行っている研究会、勉強会とも連携をはかっていくことにしました。このことによりAFRは、組織が緩やかに関与する自由度のある実質的な活動を可能とし、研究推進や情報交換の場となるとともに、広く情報発信していくこともその活動の一つとしました。現時点で実質的に活発に活動している16の研究会は研究会一覧に見られるとおりです。今後これらの研究会の活動は、研究会の構成員だけでなく、AFRに関わる関係者はもとよりそれ以外の者にも広く発信して行くことで、オープン参加を可能とし、またAFR内に新たな研究会が自由に立ち上がり、岩手県の農林畜産業を支える基盤研究から出口までの多様な面での活性化につながることを期待しています。

AFR会長 高畑 義人

AFR研究会等一覧 (研究会へのお問い合わせは afr@iwate-u.ac.jp まで)

分類	名 称	代 表 者	目 的
農 業	岩手育種談話会	高畑 義人 (岩手大学農学部)	岩手の植物育種に関する事業、研究等を行っている関係者間の研究交流、情報交換等を行うことを目的とする。
	果実の健康機能研究会	長澤 孝志 (岩手大学農学部)	岩手県産の果実を中心に、ポリフェノールなどの果実成分が生活習慣病の形成に対してどのような効果があるか明らかにし、そのメカニズムや製品化を検討する。
	果樹栽培研究会	寿松木 章 (岩手大学農学部)	岩手の果樹生産を活性化するために、リンゴの低樹高栽培、単植化などの省力・軽労働的栽培技術の開発、ブルーベリーの栽培技術向上などについて、定期的に研究会を開くとともに共同研究のシーズを醸成する。
	昆虫機能利用研究会	鈴木 幸一 (岩手大学農学部)	昆虫生産物または昆虫関連物を活用し、ヒトの QOL (Quality of Life, 生活の質) 向上を通じて地域社会の活性化に貢献することを目指す。
	雑穀栽培用農業機械の開発研究会	武田 純一 (岩手大学農学部)	現在手作業で行われている雑穀の栽培を、効率的省力的な栽培を行うための個人、汎用の農業機械の開発を目的としている。これによって雑穀の栽培拡大・普及、安定原料供給を目指す。
	水稻栽培研究会	黒田 榮喜 (岩手大学農学部)	①良食味米の安定生産及び低コスト栽培技術の構築に関する情報交換 ②超低コスト栽培技術に関する基礎的及び応用的研究
	りんどう研究会	高畑 義人 (岩手大学農学部)	りんどうを分子生物学的および細胞生物学的手法を用いて研究している研究者・技術者および交配手法等従来技術を用いて品種育種している個人育種家等の相互の情報交換を促進し、もって関連領域の研究活動を活性化し、地域におけるりんどうの振興に寄与すると共に会員相互の学術交流を図ることを目的とする。
林 業	農業 IT 活用研究会	阿部 芳彦 (岩手県立大学ソフトウェア情報学部)	情報処理技術研究者と農業技術研究者が連携し、農作物病害虫制御や土壌管理などの農業生産環境管理技術の情報化を検討する。また、農家や指導者等が利用できるアプリケーションを開発する。
	岩手入会・コモンズの会	岡田 秀二 (岩手大学農学部)	小繋事件はじめ、入会関係資料の蒐集・分析・国内林業・山村の危機など、今日の問題解決に「入会型管理・利用」の研究・地球規模の森林の持続可能な管理・利用および環境保全に関する国外事例の研究と交流・これらの成果の公開・共同利用による現代的社会経済問題解決への寄与。
	岩手・木質バイオマス研究会	伊藤 幸男 (岩手大学農学部)	この研究会は、木質バイオマス利用の普及を通じて、岩手の風土、地域性に根差した循環型社会の形成に資することを目的とする。
	木勉強会 (木を勉強する会)	関野 登 (岩手大学農学部)	森林・林業・木材産業・建築といった川上から川下までの相互理解を深め、木材利用の活性化を通じて、健全な森林の育成・保全・利用の一助となることを目的とする。
	樹木資源利用研究会	橋本 良二 (岩手大学農学部)	岩手の樹木資源の有効活用 1) 自生の樹種・系統の特性把握 2) 新たな森林造成の地域適応性・バイオマス生産・環境保全(緑化、景観、アメニティ) 3) 巨樹・古木等の保全
	伐出システム研究会	澤口 勇雄 (岩手大学農学部)	本研究会は、木材生産コストの低減と労働環境の改善のみならず、環境保全にも役立ちうるような地域に適合した伐採搬出技術の確立を目的に設立され、岩手大学および岩手県林業技術センターの研究者などを中心として、その他素材生産技術者、林業経営者等から構成されている。
	木質資源総合利用研究会	関野 登 (岩手大学農学部)	低炭素排出社会ならびに高炭素蓄積社会の構築には、木質資源の持続的かつ総合的な利用が重要となる。本研究会は、木質資源の利用拡大に向けて、構成員が関わる分野の技術課題や現状についての情報交換を行うとともに、研究連携の基盤を醸成することを目的とする。
畜 産	始原生殖細胞 (PGC) 研究会	松原 和衛 (岩手大学農学部)	将来精子や卵子の基になる家禽および哺乳類の始原生殖細胞 (PGC) について基礎的研究を行うとともに、PGC の動物生産への応用を検討する。
	超早期妊娠因子 (Super-EPF) 研究会	松原 和衛 (岩手大学農学部)	動物の超早期妊娠因子 (Super-Early Pregnancy Factor:EPF) の簡易検出方法の開発と、動物の生殖技術への応用を研究することを目的とする。

岩手農林研究協議会要綱（抜粋）

第1 名称

本会は、岩手農林研究協議会(Iwate Agro-Forestry Research Council, <農林研, AFR(アッフル)>)と称する。

第2 目的

本会は、岩手大学農学部、岩手県農業研究センター、岩手県林業技術センター、岩手県工業技術センター、東北農業研究センター及び森林総合研究所東北支所・東北育種場等に勤務する関係者の連携のもとに、農林科学技術の開発、関連試験研究等を推進し、地域の農林業の振興発展に資することを目的とする。

第3 事業

前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 農林科学技術とその開発に係る情報の交流
- (2) 試験研究連携グループの育成・支援
- (3) 試験研究成果の公表
- (4) その他関連する事業

第9 研究会等

共同研究・勉強会等を行うため、本会に研究会等を設置することができる。

- 2 研究会等の運営については、自主性を尊重するものとする。
- 3 研究会等を設置または廃止した時は、速やかに会長に届け出るものとする。

第10 事務局

本会の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局は、幹事長の所属する機関に置く。

本協議会に参加を希望する個人・団体等は下記事務局までご連絡ください。
研究会等の開催等の通知をメールでお送りいたします。
なお、会費は無料です。

AFR 事務局

〒020-8550 盛岡市上田 3-18-8

岩手大学農学部 AFR 事務局

e-mail : afr@iwate-u.ac.jp

TEL : 019-621-6234

FAX : 019-621-6107

AFR 幹事会

幹事長	関野 登	(岩手大学農学部)
幹事	古川 勉・畠山 均	(岩手県農業研究センター)
	千葉 潤・東野 正	(岩手県林業技術センター)
	遠山 良・鎌田公一	(岩手県工業技術センター)
	近藤恒夫	(東北農業研究センター)
	堀野真一	(森林総合研究所東北支所)
	横井修司	(岩手大学農学部)